

## 事業報告書 (令和元年度)

事業名 “頑強な青少年と地域づくりプロジェクト”  
～学校・NPOの協働を核としたマルチステークホルダー・プロジェクトとして～

団体名 特定非営利活動法人国際協力研究所・岡山 担当者名 竹島 潤  
※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

### 1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

NPOと学校の連携・協働によるプログラム学習を提案、実施することで、社会課題やSDGs（持続可能な開発目標）とのつながりをもたせた学びの場を青少年に提供した。また、その学習活動や事後活動を地域や関係機関に発信したり共有したりする場を設けることで、地域のESD（持続可能な開発のための教育）推進に寄与した。各プログラム学習はPeace, Social Issue, Global Youthの3テーマとし、岡山市内の複数の中学校で実施した。なお、新型コロナウイルス感染予防や、講師および関係機関との日程調整により、本助成事業期間を過ぎた3月に開催せざるをえないものも生じたが、ESD視点の取り組みとして実施した（一部予定を含む）。

#### 【Peace Project(1)】

・2月12日（水）ESD講演会「ポリグロットの考える“世界共通言語”～SDGs時代の今をどう生き抜く？～」：多言語話者で通訳・翻訳者のタカ大丸氏によるご講演および意見交換会を一般市民対象に岡大附属中ならびに環境学習センター・アスエにておこなった。



タカ大丸氏からは海外各国での通訳経験、一流プロスポーツ選手・政治家・棋士・芸能人などの幅広いゲストへの取材、ご自身がされている民泊などをふまえて「言葉によるコミュニケーションの大切さ」「自分からかかわりをもつことで友人を増やすことで、友人関係に基づく平和を創ることができる」「すべてのSDGs達成の礎はコミュニケーションと平和」などとお伝えいただいた。（参加者約10名）

・2月15日（土）International Friendship Meeting 2020 (Saidaiji Hadaka Matsuri)

地元岡山で500年以上の歴史を有する西大寺会陽についてのミニ講座、異文化交流会、そして実際に海外ゲストとともに祭りに参加した（西大寺観音院）。ゲストはスイス、ネパール、トルコ、アメリカなどからで、国・言葉・文化などを超えて、祭りで人々がつながることや異文化を認め合うことで平和な社会を築いていくことの大切さを体験的に学んだ。（参加者約20名）



#### 【Social Issue Project】

・8月20日（火）東日本大震災特別講演会「東日本大震災その後から今を学ぶ～福島と岡山のつながり～」と題して、福島県磐梯町





(様式第8号)

から被災されてから岡山で「串やき亭」を営まれている飯塚敦さんのお話をお聞きした。震災直後の現地で、ペンションを開放し浪江町をはじめ県内の各地から被災者を受け入れられたこと、避難生活の中で垣間見えた人間のエゴや醜さそして美しさなどをしっかりとお聞きした。また、岡山の中学校でこうしたテーマで学んだ中学生の反応などを共有することができた。(参加者12名)

・3月20日(金祝) COP25 中学生・ユース学習会「気候変動やSDGsは他人事じゃない！」

岡山の中学生をはじめ青少年層が、気候変動やSDGsについての理解を深め、考え行動する機会として、講師による講演会と意見交換会「今後の私(私の学校)ができること」をおこなう。岡山市内3校を含む合計4中学校約20名の中学生が参加予定。今後は中学生の地元公民館でも発信する活動につなげる予定。(参加予定者30名)

### 【Global Youth Project(1)】

・7月20日(土) International Meeting Summer

夏休み前に有志中学生1~3年生15名と6名のゲスト留学生たちが英語を用いて、グループ交流・ディスカッションをおこなった。ディスカッションでは“えんたくん”を用いて、各国の食文化や流行・人気のあること、お互いの国について好きなことなどを話し合った。(参加者約30名)



・12月21日(土) International Meeting Winter

冬休み前に有志中学生18名とゲスト留学生10名がグループ別交流、ディスカッション、全体共有(意見交換)をおこなった。3年生の参加者が多かったことで、社会的な問題や将来について英語で活発に意見交換された。(参加者30名強)



### 【Global Youth Project(2)】

・10月15日(火)~22日(日) ウガンダ “Watoto ワトトこども聖歌隊” 学校・NPO 連携プログラム:岡山市内の複数の小・中学校で交流や公演を実現した(岡大附属中・旭



東中・操南中・高島小・旭東小ほか)。また、(土)(日)に開催された岡山シンフォニーホールおよび倉敷市民会館におけるステージ公演では、複数の中学校からなる有志中学生による通訳ボランティア・楽屋ボランティアを組織し、ワトトの子どもたちを多文化共生の視点で、体験的に学ぶ機会を創ることができた。(参加者など1,000名以上)



### 【Peace Project(2)】

・3月4日(水) 平学習プログラムならびに講演会

「シリアの人々とともに~人質40ヶ月からの自由~」と題して、ジャーナリストの安田純平氏を講師に、ご講演と意見交換会をおこなう予定であった。中学生たちは学校の平和学習、一般市民の方々のご自身の平和認識やご経験をもとに、貴重なお話を通して平和について熟考する機会とするつもりであったが、来年度の延期開催となった。(参加予定者



約50名)

・3月14日(土)東日本大震災追悼9周年事業「東日本大震災での日米の絆～あなたは“トモダチ作戦”を知っていますか～」

当NPOではこれまで、3.11追悼・特集事業として浪江町における現地活動報告会や講演会、福島県の当事者の方をお招きしての座談会、ドキュメンタリー映画自主上映会、公民館連続講座などを実施していた。今年度は、少し視点を変えて、災害と事故の発生時に日米間の「トモダチ作戦」で国や文化、言葉を超えた絆や連帯があった事実を学ぶとともに、復興や持続可能な社会に向けて、積極的平和の考えをもつ機会をつくった。

事前事後の学習やフィールドワークなども含めた取り組みとする。(参加予定者20名強)

## 2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

### ①ESD視点の学びで育みたい能力・態度

各テーマにかかわる学習プログラムを作成・計画・実施する際には「ESDの学習指導過程を構想し指導するために必要な枠組み」(「学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究」国立教育政策研究所2012)を参照し、青少年や市民など学ぶ立場にある人に育みたい能力・態度を重視した。

### ②教育効果をあげるための工夫

社会課題と青少年をつなげるには、学校教育でおこなわれる総合的な学習の時間(国際・人権・平和など)を中心としてプログラム策定が有効で、無駄が少ない。また、NPOはじめ多様な機関と連携・協働することで、ESD視点としての内容のつながりを明示・確認する必要性が生じる。さらに、当該地域とのつながりをいかした発表会や世代間交流の場を設けることで、青少年にも地域の大人にも波及効果をもたらすことができる。

### ③学びと実践を結び付ける工夫

各教科で学んできたことをもとに事前～本体～事後のつながりをいかしたカリキュラム構成を目指し、その積み重ねとなる発展的な学習活動として、交流活動やプレゼンテーション、意見交換会、パネルディスカッションなどを組み入れることができた。また生徒主体となる実行委員会と当該学校の地域や公民館での活動により、行動化の機会を保障することができた。

## 3. 取組の成果(参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など)

事業を通じて、各プログラムやイベントに参加した青少年(おもに中学生)が、人権・平和・環境をはじめSDGs達成を目指すうえで、多様な人々とコミュニケーションをとりながら、批判的多面的に考えて行動しなければならないこと(パートナーシップ)の大切さに気づくことができた。これは各プログラムの参加者や実行委員からのアンケートやヒアリングで確認できた。また、プログラムに参画した中学校では、生徒たちの学びに向かう姿勢から、それぞれの課題は相互につながっていることや総合的なものの見方(システム思考)を大切にして個人テーマや日々の学習に取り組む様子が見られている。これらは国立教育政策研究所「ESD視点による学習指導の枠組み」(2012)で重視したい能力・態度を育んでいると考えられる。

また、プログラムにかかわる専門・関係機関、地域や市民の方々が中学生をはじめ青少

年や学校教育のもつ潜在能力などを新たに見出すきっかけにもなったようである。

#### 4. 今後の課題と展望

- Society5.0、AIの台頭、「社会に開かれた教育課程」など、将来を創っていく子どもたちをとりまく社会や学校教育の価値観やスタイルにいろいろな変化の兆しがみられる。しかし、学習者自らの体験を大切にし、考え・行動することから、経験知の獲得をもたらす、そのうえでよりよい地域や社会を創っていける人を育てるということは、これまでもこれからも大切な、ある意味で普遍的な教育的価値である。当NPOでは、引き続き学校とNPOははじめ多様な機関をつなぎながら、ESD（持続可能な発展のための教育）の視点をもった取り組みを推進していきたいと思う。
- また、こうした取り組みの成果やプログラムのつくり方などについて、岡山市のさまざまな教育や地域づくりに携わる個人や組織に発信し、その取り組みが広がるようにしたい。
- さらに、岡山市における複数の中学校をモデル実践パートナーシップ（仮称）とし、同様のプログラムをマイナーチェンジしながら、コストパフォーマンスに優れ、持続可能な学びのあり方を提案していきたい。
- 最後に、こうした取り組みにかかわる当NPOスタッフやプログラムで連携・協働する、特に青年層・若手の人材育成について、後継者育成とあわせて考えていきたい。

岡山市は、実績のある社会貢献団体やボランティアグループが数多くあり、そうしたステークホルダーと青少年育成の現場である学校や地域が効果的な連携・協働をすることで、次世代育成を含む持続可能な地域づくりのさらなるパイオニアになれると考えている。